

平成26年度
茨城県学校長会
県南バック研修会
報告書



主催 茨城県学校長会県南バック協議会

**平成26年度 茨城県学校長会県南ブロック研修会
実 施 要 項**

- 1 日 時 平成26年10月29日(水) 9時10分 ~ 12時40分
 2 会 場 ホテルグランド東雲(つくば市小野崎 488-1 電話:029-856-2211)
 3 主 催 茨城県学校長会県南ブロック協議会
 4 趣 旨 学校経営は、人的物的条件を整え、一人一人の能力適性を開発して、人間性豊かな児童生徒の育成を目指す継続的な教育の営みにほかならない。県南ブロック校長会は、学習指導要領並びにいばらき教育プランを踏まえ、一人一人が輝き、自立する子供たちを育成する学校経営を目指し、校長の視点から研究を深めるものとする。
- 5 参 加 者 茨城県県南教育事務所管内各公立小・中学校長 243名
 6 来 賓 茨城県市町村教育長協議会長、つくば市教育長 柿沼 宜夫 先生
 7 講 師 茨城県教育庁義務教育課 管理主事 栗山 賢司 先生
 茨城県県南教育事務所 所長 富永 保 先生
 " 副参事兼次長兼総務課長 田口 克弥 先生
 " 人事課長 山田 典明 先生
 " 学校教育課長 青山 晴美 先生
 " 人事課管理主事 遠藤 知昭 先生
 " 管理主事 大古 輝夫 先生
 " 管理主事 奥谷 克二 先生
 " 学校教育課主任指導主事兼生徒指導班長 鈴木 不二男 先生

- 8 研究主題 「信頼される学校づくりのための校長の役割」
 9 分 科 会

分 科 会 研究主題	内 容	発 表 者			講 師	
		市 郡	校 名	氏 名		
1	教育課程 の実施	創意を生かした特色ある教育課程の編成と実施	かすみがうら市	下 稲 吉 中	岩瀬 哲夫	茨城県県南教育事務所 人事課 管理主事 奥谷 克二 先生
2		基礎・基本の確実な定着と一人一人を生かす学習指導	守 谷 市	郷 州 小	中村 博吉	茨城県県南教育事務所 学校教育課長 青山 晴美 先生
3	心の教育 の充実	多様な体験活動を生かした心を育てる教育	つくば市	吾 妻 小	土田十司作	茨城県県南教育事務所 人事課 管理主事 大古 輝夫 先生
4		規範意識を育て豊かな人間性や社会性を育む生徒指導	石 岡 市	八 郷 中	古谷田明良	茨城県県南教育事務所 学校教育課主任指導主事 兼生徒指導班長 鈴木不二男 先生
5	学校経営 の改善と 現職教育 の推進	家庭・地域社会の教育力を生かし、共に新しい学校づくりを目指す連携の在り方	龍ヶ崎市	松 葉 小	陶 慶一	茨城県県南教育事務所 人事課 管理主事 遠藤 知昭 先生
6		人間性と専門性を高め、教職員の意識改革を促す現職教育	土 浦 市	上大津東小	羽鳥 文雄	茨城県県南教育事務所 人事課長 山田 典明 先生

1 0 司会者・記録者・世話係

分 科 会	司 会 者			記 録 者			世 話 係		
	市 郡	校 名	氏 名	市 郡	校 名	氏 名	市 郡	校 名	氏 名
1	かすみ がうら	千代田中	市川 一典	つくば みらい	福岡小	荒井 馨	つくば みらい	豊 小	富田 良一
2	守谷市	大井沢小	金久保敬二	稲敷市	沼里小	百瀬 伸也	稲敷市	古渡小	古山 哲
3	つくば市	谷田部小	中島 達夫	稲敷郡	大谷小	篠崎 博明	稲敷郡	阿見小	菅谷 道生
4	石岡市	国府中	谷仲 紀彦	取手市	六郷小	飯泉 務	取手市	取手一中	戸部 明彦
5	龍ヶ崎市	長戸小	岡崎 和男	牛久市	奥野小	鈴木 利子	牛久市	下根中	岩田 博
6	土浦市	真鍋小	廣原 高志	つくば市	作岡小	加藤 朋子	つくば市	並木小	天貝 貢

1 1 日 程

8:30	9:10	9:50	10:00	11:30	11:40	12:10	12:40
受 付	開 会	移 動	分 科 会 発 表・協 議	移 動	全 体 会		昼 食
	全 体 会				講 師 指 導	閉 会	

《 全体会・開会 》

- 1 開会のことば
- 2 県民の歌斉唱
- 3 主催者あいさつ
- 4 来賓・講師代表あいさつ
- 5 来賓・講師紹介
- 6 日程説明・諸連絡

《 分科会 》

発表 20分 協議 50分 指導 20分

《 全体会・閉会 》

- 1 指導講評
- 2 閉会のことば

《 昼食 》

会 場

- 全体会 (2 階 有明の間・暁の間)
- 第1分科会 (2 階 朝日の間)
- 第2分科会 (2 階 インペリアル)
- 第3分科会 (2 階 パレスルーム)
- 第4分科会 (1 階 ガーデンルーム)
- 第5分科会 (1 階 フォレストルーム)
- 第6分科会 (1 階 楓の間 葵の間)

第1分科会

研究主題「創意を生かした特色ある教育課程の編成と実施」 - 活気あふれる学校の実現に向けて -

講師	茨城県県南教育事務所人事課管理主事	奥谷 克二 先生
発表者	かすみがうら市立下稲吉中学校	岩瀬 哲夫
司会者	かすみがうら市立千代田中学校	市川 一典
記録者	つくばみらい市立福岡小学校	荒井 馨

1 発表内容（発表要項を参照）

2 主な協議事項

発表内容について

（質問）下稲吉中学校区三校連ボランティア組織の本部は下稲吉中となっているが、本部はさまざまな活動の中心になり大変かと思うが、どのように運営しているのか。

（回答）本部の事務局は、教頭（第2教頭）が行っている。定期的に会議を開いて企画をし、運営等について話し合っている。三校の元PTA役員10名ほどがボランティア活動の中心となってよく活動している。活動はボランティアの方に委ねている。新しいボランティアが入ってこないことが、課題となっている。

（質問）発表のなかで触れられた「発達障害のある生徒への対応」「ボランティアの警察OBの仕事の中身」「問題行動たて直しのための小中の連携」について、詳しく聞きたい。

（回答）・「発達障害の生徒への対応」

対教師暴力4件を起こした発達障害の生徒は、親が薬をあまり飲ませていなかった。保護者に現状を話しても、協力してもらえなかったため、対教師暴力を起こした時に警察を呼び、保護者に学校の対応についての姿勢を示し、薬を飲ませることに協力してもらった。その後、当該生徒は落ち着いてきた。

・「ボランティアの警察OBの仕事の中身」

市の支援をうけて、警察OBの方にボランティアとして、巡視・相談活動への協力をいただいている。

・「問題行動たて直しのための小中の連携」

授業の成立が重要であるので、学習において小学校での基礎基本（算数の九九）、中学校での基礎基本を身に付けさせられるようにした。

（質問）本校も同じような課題を抱えていて、授業の充実を図ることで活気ある学校にしたいと考えている。資料にある「下中ホッとタイム（放課後学習）」について、詳しく聞きたい。

（回答）部活動が充実してきて、次は学力向上と職員に投げ掛けたところ、下中ではがんばりたいと考えている教師の発案で始まった。行事検討委員会で提案し、昼の清掃を10分にし週2日（水・木）実施することを決定し、日課表に位置づけた。実施内容は、プリント学習を以前はしていたが、現在は自学になっている。

（質問）中学校で二次的な障害のある生徒への医療的な手段での対応は遅いと聞いたが、小学校からの対応が必要であると思う。障害のある児童の暴言・暴力等に対して、分科会参加の学校で効果のある取組・事例があれば、教えていただきたい。

（回答）・子どもと保護者への対応をしていく必要がある。学校では認知的行動療法だけなので、家庭の協力を得なくてはならない。ADHDの子が医療的処置を受けることと投薬は、保護者の理解と協力が必要。

・保育園、幼稚園の時から、障害のある子どもの保護者への指導をし、早めに対応するため保護者の協力を得る必要がある。

3 講師指導内容

(1) 発表について

訪問するたびに下稲吉中が、良い方向に変わっているのが見えてきた。校長先生を中心に先生方全体で取り組んでおり、学校全体が上昇傾向にある。その背景には、ボランティア活用等での学力向上への取組、あいさつ・清掃等の徹底による基本的生活習慣の定着を図る取組、「下中プライド」を育成し生徒の自尊感情や規範意識を育てる特別活動等での取組、信頼関係の確立をする取組等のぶれない取組があると感じた。

(2) 協議題より

特色ある教育課程の実践について

教育課程編成には5つの原則がある。そのなかの「児童・生徒の人間として調和のとれた育成を目指す。」「地域や学校の実態を十分に考慮する。」という2つを考慮し、下稲吉中では、学校支援ボランティア・あいさつ運動等を実施し、心の教育とのバランス・学校の実態を考慮した実践となっている。特色ある教育課程実践には学校評価やSWOT分析で学校地域の実態をとらえ、課題の共有、問題意識の醸成が大切である。

学力向上について

生徒一人一人に対応するために、学校支援ボランティアを活用している。長期休業学習支援、地域で土・日に小・中学生対象に学習支援している「いなよし広場」、また、家庭学習への保護者の協力など、地域・保護者の力をうまく活用している。また、日課表の工夫等がミドルリーダーや若手教員からの提案で実践されていることがすばらしい。地域や保護者に学校の本当の姿を理解してもらうためにも、ボランティアの活用は適切である。

「活気あふれる学校」にするための学校運営の工夫について

発表と共通するのは、「校長の思いが職員に浸透し一体感がある。」「教育目標が具体的である。」「経験豊かな先生から学べる。」「ミドルリーダーが活躍している。」「若手を生かし学校全体を活性化している。」の5つである。この視点から、当たり前のことが当たり前のできる学校にする運営をすることで、活気あふれる学校として機能する。

第2分科会

研究主題「基礎・基本の確実な定着と一人一人を生かす学習指導」

- 若手教員の育成と地域の教育力を生かして -

講師	茨城県県南教育事務所学校教育課長	青山 晴美 先生
発表者	守谷市立郷州小学校	中村 博吉
司会者	守谷市立大井沢小学校	金久保 敬二
記録者	稲敷市立沼里小学校	百瀬 伸也

1 発表内容（発表要項を参照）

2 主な協議事項

(1) 発表についての質疑応答

理科教科担任制の成果について

理科学習のスタートを大切にするため、3年生を対象に理科専科教員と担任とのITを実施している。初任者である担任にとって、理科専科教員の指導法はよき模範となっている。

教員評価を通じた若手育成について

将来を考え、講師を対象とした評価を実施し、自己申告書の書き方を丁寧に指導している。

若手に対しては、よさを見つけて褒めることに専念している。

学校外における研修について

研究発表会等には若手を中心に参加させ、帰校後研修の成果を報告する機会を設けている。

スクールサポーター制度の運用について

謝金無しでお願いしている。年度当初に各学年で作成した活用計画をスクールサポーター会議で提案することにより、必要に応じた人材を募ることができるようにしている。

(2) グループ協議

若手教員の育成について

- ・ 県や市町村主催の研修を着実に成果に結びつけられるよう配慮している。
 - ・ 校長が直接若手教員に指導する機会を意図的に設けている。
 - ・ 校務分掌で重要な役割を与えることにより、自覚を促しながら組織の中で活躍できる資質や能力を育てている。
 - ・ 他校と連携し、優れた指導力をもつ教員の授業を参観する機会を設けている。
- 地域の教育力の活用について
- ・ ライオンズクラブによるライフスキルプログラム「ライオンズクエスト」の講習会に全職員を参加させ、学級作りを強化している。

3 講師指導内容

データが豊富であり、経営者としての羅針盤が的確な発表であった。スタッフが毎年変わる中で、組織をしっかりと把握し、校長のパワーを伝えている。学習指導に当たっては、子どもだけでなく、教師「一人一人」をどう生かすかという観点が重要になってくる。

「若手」が多様化（44歳の新採など）している。先入観を捨て、「若手」「ベテラン」のイメージを刷新する必要がある。

若手研修の実施に当たっては、職員全体のレベルアップにつなげる工夫や学校間でよい授業を見合う工夫をしていくことが重要である。日常の授業から学ぶものもたくさんあるので、校内でも積極的に他の授業を参観するシステムを作ってほしい。

初任者に対して「教師主導型の方が効果的である」などと誤った指導をしてしまうベテランもいる。このような教員にどのように対応していくかも校長としての大きな課題である。

守谷市全体の教育計画のすばらしさにも注目したい。全保護者に配られているパンフレット一つとっても、上質の紙を用いて、いつでもどこでも繰り返し使えるよう配慮されている。

全国学力・学習状況調査については、送付前に全児童の解答用紙に目を通し、自校で傾向を分析し、仮説を立て、実践するといった決断力が必要である。

スクールサポーターの運用については、マネジメント・サイクルにおける「C」と「A」の充実を図りたい。活用の成果を「いつまで」、「だれが」、「どのように」評価し、改善するかといった校長の「歯車」が重要である。

学習指導力向上に向け、校長がどのように関わっていくかがきわめて重要である。若手以外にも指導しなければならない教員は多い。授業参観を通して、次のような観点から個々の指導力を的確に見取り、教頭・教務主任等との「歯車」を大切に指導に当たってほしい。

- ・ 興味・関心を高める課題作りを行っているか。
- ・ 板書は工夫されているか。
- ・ 子どもから見て授業の流れはわかりやすいか。
- ・ 学習形態や調べ学習のさせ方は工夫されているか。
- ・ 思考の時間や振り返りの場は確保されているか。
- ・ ICTの活用が図られているか。

講師	茨城県南教育事務所人事課管理主事	大古 輝夫 先生
発表者	つくば市立吾妻小学校	土田 十司作
司会者	つくば市立谷田部小学校	中島 達夫
記録者	美浦村立大谷小学校	篠崎 博明

1 発表内容（発表要項を参照）

2 主な協議事項（グループ協議の後全体協議）

(1) 地域・保護者・関係機関と連携した体験活動，心の教育をどのように進めていくか。

地域性を生かした情報，豊富な人材を活用した事例が紹介されたが，計画の段階で苦労していることとどのように調整しているのかを教えてください。

・すべての事例が，3年前に着任してからの企画で，いつも子どもたちに豊かな体験をという思いでアンテナを高くしている。どんなことが地域にあるかを意識して情報を入手し，「よし，やってやる」という意気込みで取り組んでいる。

・企画や途中の段階では，非常に苦労するが，研究所や大学の先生方は，当たってみると非常に協力的で，すぐに対応してくれるので敷居は高くないと実感している。

・教育課程上での調整や予算上の問題はあるが，教頭，教務を育てる役目で対応している。学校組織目標の「思いやりの行動がとれる児童を育てる」の数値目標に対し，評価が低い

が，目標を達成させるための実践例と今後の取り組みについて教えてください。

・具体的に思いやりの行動がとれる体験は，基本的には学級が基盤なので，学級での様々な

取り組みを充実するように伝えている。特に，良さを認め，褒め合う場面を大切にし，帰りの会等での良さを認め合う活動を取り入れ，良さをつないでいく力を育てている。

いじめ撲滅フォーラムについてもっと詳しく教えてください。

・小中学生と一緒にフォーラムで話し合っている。中学校における認知件数が多いので学園全体で取り組み，各学級で話し合った後に全体で話し合う形を大事にしている。

小中一貫を進めていく中で，たっぴり交流活動をする企画にはどのようなものがあるか。

・吾妻フォーラム的なものや夏季休業中における学習サポート，陸上応援，キャリア教育での職場体験で語り合う活動が中心になっている。

・一小一中なので，打ち合わせが短時間で済むことや4月2日から学園職員会議を行っていることで，職員全体に学園という意識があることは大きい。

二小一中で活動（つくば市）する場合は，どのようにしているか。

・距離があるためにすんなりいかず，施設上の制限もあるので中学校で実施することが多く，陸上競技会の練習や指導は，小学生が中学校へ移動して行っている。

・講演会やギター演奏会等は，中学校で実施している。普通の授業では，小中連携での乗り入れ授業として行い，中学校から小学校へ英語や音楽教師が出向くなどして，専門的な指導を行っている。また，小中学校相互での授業参観を行っている。

(2) 多様な体験活動をもとにした「心の教育」を進めるために，校内組織，職員研修の工夫をどのように進めればよいか。

教職員の多忙感を，どのようにコントロールして学校経営をしているのか。

・どんな企画も事前に資料を配付し，会議は短く，素早く行っている。また，教員の意識も高く，若い学年主任等のリーダーにやる気があるので，前向きに活動してくれている。

他に，学校長としてのマネジメントとして，どんなことを行っているか教えてください。

・守谷市では，心の教育につながるものとして「江戸しぐさ」を参考に「守谷しぐさ」を道徳の副読本として作成中である。来年度から市内全校で活用（幼稚園，高校も）し，情報交換をしながらより良いものにしていこうと取り組んでいる。

3 講師指導内容

望ましい集団活動を如何に体験させるか，どのような体験活動でそれを達成できるかという目的意識をもって体験活動を設定していく。最初に体験活動ありきではなく，何を考えさせ，学ばせ，身に付けるかということでの体験活動の位置付けが大事である。

学校経営の責任者として大切なことは，体験を通して何を学び，何を考え，何を身に付けさせ，学んだことを次にどう生かすかというビジョンをしっかりとって取り組ませることである。

「吾妻まつり」の全体運営に小学生がかかわっている。運営に携わる人など，多くの人のふれあい経験や交流活動をとおして，地域の一員としての自覚と愛着が育つ。

「防災教育モデル事業」は，学校と地域のこれまでの関係がポイントである。保護者やPTA役員の中で，生かせる人材を活用すると子どもたちの体験も変わってくる。

被災地域との交流では，誰を呼ぶかの意図がある。被災者が困難を乗り越え，強く生きている姿を見て感動を感じ取ることで，心が育っていくだろう。

「国際集会，交流会」は，外国人児童，保護者と積極的に交流を図っている様子を見ると，当たり前な生活になっている。言葉の文化，習慣をもった人々との共生も考え方の一つである。

「いじめフォーラム」では，同じ問題を小中学生が話し合うことで，小学生の不安を取り除き，本当の意味で中学校を知ることができ，意義ある取り組みになっている。

地域の特色を生かし，本物に触れる取り組みで，目的意識をしっかりと持ってどういう体験をさせるかという組み立てや順番を間違えないようにして組んでいくことが大事である。

連携とは，横と縦の連携のほか，斜めの連携がある。斜めの連携は，地域，関係機関等の第三者が入ってくる。今回の実践のように斜めの連携をして，立体的に連携を組んでいくこと，

その中でいろいろな体験活動を通して，子どもたちに豊かな心を育てていきたい。

直接的な体験活動をカリキュラムの中に位置付けてあれば，どの学年でいつになどを見直しながら系統性をもたせてカリキュラムを編成することが管理職にとって大事な仕事である。

第4分科会

研究主題

「心の教育の充実」
「規範意識を育て豊かな人間性や社会性をはぐくむ生徒指導」
～ 新生「八郷中学校」開校から2年間の校長としての取組を通して～

講師 茨城県南教育事務所学校教育課主任指導主事兼生徒指導班長 鈴木 不二男 先生
発表者 石岡市立八郷中学校 古谷田 明良
司会者 石岡市立国府中学校 谷仲 紀彦
記録 取手市立六郷小学校 飯泉 務

1 発表内容（発表要項を参照）

2 主な協議事項

統廃合による開校から2年間の取組

- （質問）・統廃合で3校の中学校（有明中・八郷南中・柿岡中）の職員が集まり、教職員の意識をどのように変えていったのか。学校ごとの派閥はなかったのか。
- （回答）・生徒指導の対応で前の学校ごとに対応が異なることがあった。学年主任によっても指導の差があった。そのため、校長として、具体的な対応の仕方について確認を行った。
- （質問）・職員とのコミュニケーション回路を開くことについて、校長の具体的な取組は。
- （回答）・新しい学校では、どんなことが必要か。今後のライフスタイルについて、職員の心配事等を面談で一人一人に聞いた。面談はとても有意義であった。
- （質問）・授業での板書計画の助言や保護者から得た情報を職員に伝えている。
- （回答）・統廃合して1年目は職員は緊張しているが、2年目になると緊張が緩んで学校がよく荒れると言われている。そのため組織機能の強化、主任会等のもち方の工夫についてどのように行っているか。
- （質問）・職員とのコミュニケーション回路を開くことについて、校長の具体的な取組は。
- （回答）・新しい学校では、どんなことが必要か。今後のライフスタイルについて、職員の心配事等を面談で一人一人に聞いた。面談はとても有意義であった。
- （質問）・授業での板書計画の助言や保護者から得た情報を職員に伝えている。
- （回答）・統廃合して1年目は職員は緊張しているが、2年目になると緊張が緩んで学校がよく荒れると言われている。そのため組織機能の強化、主任会等のもち方の工夫についてどのように行っているか。
- （質問）・現在、生徒の様子はどうか。
- （回答）・現在、生徒の様子はとても良い。運営委員会や学年会の会議に時間をかけて実施している。校長は、一緒に話しを聞き、アドバイスを行っている。
- （質問）・保護者に対するのは、担任であり、校長が学年会に入って学年会の意見を聞く。校長は、意見を述べ先生方に対応を考えさせている。
- （質問）・地域や保護者を巻き込むことが大切である。校長としてどのような協力を得ているか。
- （回答）・柿岡の地区に14年勤務していたため、現在保護者がその当時の生徒であり、保護者を良く知っている。そのため、部活動内でのトラブルがなくなるように試合の応援等で保護者と接し情報交換を行っている。
- （質問）・小中一貫教育の取組はどんなことをしているか。
- （回答）・昨年度、八郷小中連絡協議会を発足。校長・教頭・教務・PTA 会長が集まり会議を行っている。
- ・小・小連携では、宿泊学習を一緒に行ったり、あいさつ運動では中学校や小学校に出向いたりして行っている。夏休みのプロジェクトにも参加している。

3 講師指導内容

ランドデザインの中にある「夢とロマンと感動を」すばらしい経営目標である。
エコモニターでは、平均18Km。余裕があると19.4Km、急いでいるとき17.5Km 自分の気持ちを見ることができた。（余裕をもっての行動の大切さ）

統廃合について
・文科省では、昭和31年から統合方策について、教員の適正な配置や施設設備の整備充実について答申しているものである。

学校組織について
・なべつた型とは、縦型の組織で支配的・命令的・一方的。ウェブ型は、横型の組織で、協働的・質問的・相互的である。職員意見を生かす。

規範意識の醸成について
地域での取組例として
あいさつ・言葉遣い
相手の話を聞くこと、
身なりや身の回りをきちんとする
時間を守ること
家庭での生活

あいさつ・言葉遣い

- ・導入期（就学前の1年間と小学校4年生まで）
大きな声であいさつや返事
先生・大人への言葉遣いと友だち同士の言葉遣いを使い分け
相手を傷つけたり、からかったりするような言い方をしない
- ・充実期（小学校5年生から中学校2年生まで）
元気で優しい言葉で、心のこもったあいさつ
授業時と休憩時の区別をつけるなど、時と場に合った言葉遣い
- ・発展期（中学校3年生から高校3年生まで）
時・場所・状況に応じたあいさつ、返事、態度、言葉遣い

森 信三（哲学者・教育者）
「時を守り、場を清め、礼を正す」
・・・信用を積み重ね、礼を正す
清掃 気づく 心も磨く 謙虚になれる 感動の心を育む 感謝の心が芽生え。

アセス（学校環境適応尺度）について
・生徒理解 生徒の実態を見る どう指導していくか。個別対応を図ることが大切である。
学校組織について
・創造性とは、発明発見の能力ではなく、問題解決能力のこと、創造と伝統（保守）は互いに相からみながら社会の発展に寄与する。〔川喜田二郎（KJ法）〕
・輪を大切に
生徒指導では、自己決定・自己存在感・共感的人間関係の場が大切である。
学校行事では、
・ピンチをチャンスに変えていく。人数が多いからでなくどう生かすかが大切である。

第5分科会

研究主題「学校経営の改善と現職教育の推進」

・ 家庭・地域社会の教育力を生かし、共に新しい学校づくりを目指す連携の在り方

講師：茨城県県南教育事務所人事課管理主事 遠藤 知昭 先生
発表者：龍ヶ崎市立松葉小学校 陶 慶一
司会者：龍ヶ崎市立長戸小学校 岡崎 和男
記録者：牛久市立奥野小学校 鈴木 利子

1 発表内容（発表要項を参照）

2 主な協議要項

(1) スクールサポーターについて

（質問）授業サポーターの実践で、保護者をコーディネーターにしたら無理があった。コーディネーターをどのようにしているか。

（回答）教頭がコーディネーターをしている。授業で何をしてほしいのかを事前に打ち合わせをする。地域の人には来校していただき、専門機関とは、電話で連絡を取り合い、当日詳しい打ち合わせをしている。

（質問）スクールサポーターには、人選の難しさがある。松葉小には、そのノウハウをもって取り組んでいるように思える。授業者は、どのような気持ちでサポーターを受け止めているのか。

（回答）松葉小にはその歴史があり、サポーターも授業者も自然な形で活動している。だから、人選も大きな課題になっていない。松葉小では、地域で子どもを育てようという素地があった。校内にも「松葉サロン」があり、常にお年寄りが活動している。

・ 松葉小は学校が主体となって立ち上げたが、本校では、サポーターを市教育委員会が管理し、それを必要に応じて活用している。大学との連携も積極的である。

・ 企業との連携でキャリア教育を進めている。放課後の勉強では、学生が来てくれて大変助かっている。

(2) 郷土愛を育てることについて

・ アンケート（自分の市が好きか）の実施で、小学校50%、中学校30%であった。自分の市についてよく知らないのでは、好きになれないのではないか。

・ 学校から地域へ入り込むことも大事である。これは、地域に学校を理解してもらうよい機会となる。

・ 素材を教材化していくことが大切。五感を通して児童生徒に体験させることが大事。地域の行事に参加すると心が育つ。祭りの後の清掃活動も一生懸命活動している。

・ 地域の行事に児童生徒が参加している様子を見てみると、伝統はこのように育っていくのかと感じられた。

・ 子どもあつての連携を忘れてはならない。

3 講師指導内容

(1) 発表内容について

発表の流れ

・ 「教育振興基本計画」からスタートし、今日的教育動向を紹介している。方針4の「地域と共にある学校づくり」に基づいて論じており、適切な主題設定である。

取組について

・ 地域、保護者、専門機関をコーディネーターする事務局がある。地域コーディネーターの設置が成功の鍵を握っている。松葉小では、それを事務局が担っていた。事務局会議が大切となる。

・ 年間計画がしっかりしている。活用が明確である。

・ 事後の振り返りが次へのステップとなっていく。

課題解決にも

・ 大規模校としてスタートしたが、現在は児童数の減少傾向にある。開校当時の保護者が子どもが在籍していなくても再びボランティアをしてくれている。学校も助かるし、シニア世代の生き甲斐にもなっている。

(2) 地域の教育力を生かした活動を次に生かすために

学習のあしあとを残す

・ 児童生徒のまとめに朱書きのコメントをしっかりと

・ 活動はねらいに沿って、最後まできちんとやらせる。

第6分科会

研究主題「学校経営の改善と現職教育の推進」

- 人間性と専門性を高め、教職員の意識改革を促す現職教育 -

講師	茨城県県南教育事務所人事課長	山田 典明 先生
発表者	土浦市立上大津東小学校	羽鳥 文雄
司会者	土浦市立真鍋小学校	廣原 高志
記録者	つくば市立作岡小学校	加藤 朋子

1 発表内容（発表要項を参照）

2 主な協議事項

(1) 教職員の授業力や対応力を高めるための校内研修の充実について

授業を見合うことを優先している。指導案は焦点化して略案にし、ワークショップ型研修を行っている。また、月の6校時に1クラス残して、授業研究を行うところもある。中学校では、教科をまたいで、授業力の向上、生徒指導に役立っている。小小連携、小中連携で授業参観、研究協議を行っている。

あらゆる分野に関して、校長の手腕が発揮されていてすばらしい。

(質問) 研修担当者に対する校長のかかわりをどのようにすべきか？若手の育成については？

(回答) 研究主任、算数主任を中心に、前年度の反省をもとに部会で計画を立てる段階で、真剣に向き合い、本当にそれでいいのか？レベルアップを図るためにどうすればいいのか、アドバイスをを行う。企画会や職員会議では見守り、職員のボトムアップを大切にしている。若手育成については、できるだけ校長や教務主任、学年主任がよりそうようにしている。

クレーム対応力、危機管理力の向上など研修が多岐にわたっていて参考になった。授業研究後の話し合いで充実を図っている。小中一貫の授業参観やブラッシュアップ研修を中心に研修している。研究会後の成果を新しいメンバーに伝達講習することで、共通理解を図っている。教職員の温度差については、若手を育てる視点でアドバイスすることで、良い雰囲気が出て、周囲を変容させることも可能になる。

(2) ミドルリーダーや若手教員を育てるための校長としての取組について

中学校においては、学年主任会や生徒指導部会を組織で動かし、ミドルリーダーのアップダウン方式で、ミドルリーダーを育てている。小学校においては、補充教員が多いため、研修会への積極的な参加を促し、一人ひとりの教員のよさを認め、伸ばす。また、校内の授業を見せたり、役割を与えてアドバイスをしたりすることで、若手を育てている。

学年主任会を活用している。学年主任を50歳代から40歳代に移行して若手に任せる。役割を与えて生かし、「期待する」という声かけを行っている。若手をベテラン教師と組ませて、研修の機会を与える。教科担任制を行い、他教師の学級経営を学ぶ。個別面談の場を多く持ち、校長からの声かけをし、認めていく。

(質問) 個人カルテとは、どのようなものか？

(回答) 評価する時期の近くで教員評価することがよくあるのを避けるため、A3サイズの二つ折りにした一覧表を持ち歩き、意識的に、授業参観の折、教室巡視の折に、グッドポイントを殴り書きし、労をねぎらったり、いいところを伝えたりしている。

(3) 教職員の勤務意欲や資質・能力の向上を図るための教員評価の充実について

校長用のマネジメント評価への取組がすばらしい。特に、自分自身を客観的に見る気持ち、実践がすばらしい。H28年度より処遇に反映されることにより、評価カルテ等の蓄積が必要になってくる。特に、目に見えた結果が必要。個人目標において、何を、いつまでに、どつするかを考え、数値目標で示すことが大切。それを一つひとつクリアさせることで、学校の活性化につながる。

今後の課題としては、不服申立委員会の内容を再確認し、その根拠となる校長の補助簿も必要になるということである。また、教職員がアピールする場も必要になる。危険なのは、成果主義に陥ると、難しい学級はもちたくないという考え方も出てくるということ。

3 講師指導内容

発表内容について

・研修方法としては、テーマを絞り有効な研修である。校長としての学校経営のあり方を自ら問い、自分自身にノルマを課して、共に学ぶ姿勢を教師に示して邁進する、校長の熱い思いが感じられる。

・組織マネジメントを意識して、活性化させるための3つの柱、1. 目的の共有、2. 協働体制の確立、3. コミュニケーション力を中心に据えて、校内研修と組織目標とをリンクさせて、校長の基本的な方針、資料を明確に示し、具体的な指導を行っている。

・教職員との面談については授業参観後、相手の立場に立って、資質能力・指導力の向上について、明確な視点をもって、指導を行うことで、信頼関係を構築している。

教員評価個人カルテの作成、バックデータの蓄積など、様式例を示していただいたが、必ずしもOKではないので、使用して改善につなげたい。

現職教育については、職域、職層に応じて、仕組みを整えて研修していきたい。OJT研修を有効に活用し、内容や時期、職員の組み合わせ、スーパーバイザーの存在など工夫したい。

トップは、次のステップへ向けて的確に遂行してほしい。特にパワーハラに注意し、自己の経験をもとに、自らが校長としての責任を背負いながら、気持ちよく勤務できる職場にしてほしい。